

# 令和元年度 事業報告

## 1. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

### 1) 関連研究プロジェクト

(八木会長)

(1)研究タイトル『舞踊教育の現状に関する国際比較研究』

(2)申請者：八木ありさ（日本女子体育大学）、細川江利子（埼玉大学）、飯田路佳（十文字学園女子大学）、高野牧子（山梨県立大学）、佐藤廣子（竹早教員保育士養成所・非）、寺山由美（筑波大学）、宮本乙女（日本女子体育大学）、田中葵（千葉明德短期大学）、渡辺碧（日本女子体育大学）、大西祐司（びわこ成蹊スポーツ大学）

(3)研究背景：ダンス・舞踊は、表現や身体表現、ダンスとして学習指導要領の中に位置づけられていることから、学校教育におけるその教育的価値について一定の認知と理解を得ていると考えることができる。また、生涯教育においても、世代を超えて様々なタイプのダンスに親しむ人が増えていることが報告されている。身体表現を重視する教育文化の現状について、その源流と考えられる欧米、特にドイツと日本で比較し、日本の独自性を探ることを目的とした。

(4)研究報告：2年目の令和元年度は、Berlin Freie Universität(独)と交流を行いベルリンでの状況を調査した。

教育内容については州(国)が主導権を持つドイツ連邦であるが、NRW州では学校でのダンス教育への関心が一定程度あり、1990年代から州の取り組みが盛んであるのと比較して、ベルリンでは一部での関心にとどまっていることがわかった。例えばベルリン州で策定している中学校・高校相当の学校体育スポーツ指導のガイドラインに、Bewegung gymnastisch, rhythmisch und tänzerisch gestalten(運動を、体操的、リズムカル、ダンス的に組み立てる)があるが、身体コーディネーション能力の促進などを目的とする説明が主流で、組み立てるとか振り付けるといった創作活動が含まれているものの、個性の発見や拡大といった観点への注目は記述されない。また、聞き取りを通じて、そもそも授業の中では「ダンス」に取り組む指導者は大変少なく、学校内プログラムとして行われている場合には、放課後に組まれている自由選択のArbeit Gruppe(AG;グループ活動、クラブ活動に類似)の1つの可能性として提供されていることが多い。

一方で、コンテンポラリーダンスの創作活動や実演を職業とする人々や社交ダンス、フォークダンスの振興組織が、ダンスの教育的価値を提唱して専門家の派遣を行なっている例がいくつかみられた。もっとも成功していると考えられる取り組み例では、州の助成金を獲得しつつ学級担任等に焦点化したダンスの価値啓発活動と、ダンス専門家への教育理念と方法論の指導を継続し、丁寧に時間をかけてマッチングして学校行事としてのプロジェクトへと発展させている。

生涯教育の場面では、オープン参加も含めた私的ダンス教室(学校)のほかにも市民大学の様な公的教育機関においてダンス関連の経験機会が多く用意されている。その内容は、日本のスポーツクラブ等で導入されているZUMBA®や、音楽を用いた健康体操、ボディアワーク系との組み合わせでの身体への注目と精神的解放、社交ダンス、バレエ、ジャズダンスといったダンスそのものへの関心、オリエンタル(日本舞踊も含まれる)ダンスでの異文化理解、ラテン系(TANGO、SALSA等)ダンスを通してのストレス解消などの内容で、日本の状況とは異なるのは「DISCO」と呼ばれるジャンルが好まれること、IMPROVISATION、MODERN DANCEなどの表現系のコースへのダンス非経験者の参加が少なくないことである。

### 2) 加盟団体との共同研究

(八木会長)

今年度の本部と加盟団体との共同研究は行わなかった。

### 3) 全国女子体育研究大会

ダンスフォーラム2020

第53回全国女子体育研究大会(東京)/第14回ダンスムーブメントセミナー2019

□ダンスフォーラム2020実行委員会(細川常務理事、國川理事、長津理事)

期 日 2020年2月15日(土)・16日(日)  
主 催 公益社団法人日本女子体育連盟 東京都女子体育連盟  
主 管 ダンスフォーラム2020実行委員会  
助 成 (公財)スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業  
(公財)東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成採択事業  
(公財)日本教育公務員弘済会東京支部  
後 援 スポーツ庁 (公財)日本学校体育研究連合会 (公財)スポーツ安全協会 東京都教育委員会  
東京都小学校体育研究会 東京都中学校体育連盟 東京都公立中学校保健体育科研究会  
東京都特別支援学校長会 東京都高等学校保健体育研究会 東京都国立幼稚園・こども園長会  
(一財)東京私立中学高等学校協会 (公財)日本教育公務員弘済会東京支部場所  
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター (NYC)  
テーマ 自分らしく、共に輝く今、そして未来  
内 容 第1日目 第14回JAPEWダンスムーブメントセミナー2019(2.3参照)、レセプション  
第2日目 開会式、JAPEW賞表彰式、ヨーコ・ゼッターランド氏による特別講演  
「世界ダンスアドベンチャー」発表大会、閉会式

<世界ダンスアドベンチャー発表大会講師ならびに出演者>

- ・よさこい「Welcome to TOKYO」、木村萌乃実、「花小よさこい 花笑」
- ・ハワイのフラ(ダンス)、クム ケリイ カラウコワ マサオ グロスマン、Alohappy 西東京
- ・ブルガリアのフォークダンス、村上直美、OKJ エアロビク東京ジュニアアスリート
- ・インドの Bollywood ダンス、野火杏子、文京区立小日向台町小学校3年生有志
- ・ガーナのアゾントダンス、FATIMATA、東京都立芦花高等学校ダンス部
- ・ブラジルのサンバ、三由翼、大田区立大森第六中学校有志
- ・日本の能楽、佐野登、関東学生舞踊連盟
- ・Welcome to TOKYO、飯田路佳・佐藤廣子、JAPEW-DMIL 有志
- ・みんなで踊ろう「Welcome to TOKYO」、羽多野充絵・山崎紀子・宮田美和子、来場者全員

参加者 764名(全国の教育者、生涯スポーツ等の指導者及び関係者、並びに、大学生・大学院生・一般)

参加費 一般6,000円、大学生・大学院生4,000円

<概 要>

本年度の全国女子体育研究大会は、<ダンスフォーラム2020>と銘打ち、第53回全国女子体育研究大会(東京)と第14回JAPEWダンスムーブメントセミナー2019を融合し、日頃の活動領域や関心を超え、集って踊って交流しようという新しい試みのもとに開催した。

まず、1日目はスポーツ棟第1・2体育室において、第14回JAPEWダンスムーブメントセミナー2019として実技を4講座開講した(詳細については、2.3を参照)。

続く2日目は大ホールにおいて、午前中に開会式、JAPEW賞表彰式を執り行った後、バルセロナ(銅メダル)とアトランタの2度のオリンピックに出場した元バレーボール選手ヨーコ・ゼッターランド氏の特別講演が行われた。「自分らしく輝くために～私には何が出来るか～」というテーマのもと、「2度のオリンピックの出場体験から学んだことは『チャレンジ』『可能性を追い求める』『あきらめない気持ち』『オールアウト』」であると、自らの体験を交えながら率直に、私どもの心に語りかけるようにお話し下さり、「一度きりの人生は自ら輝きを放っていこう」というエールをいただいた。そして午後には、「世界ダンスアドベンチャー」という事業の発表大会を開催した。この事業は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会への気運を高め、ダンスを通して世界の国々への親しみと尊敬の念を育むために、東京都女子体育連盟が中心となって展開してきた事業であり、その成果発表として、研究報告と、6カ国のダンスパフォーマンスを行った。加えて、本大会に先立ち、2017年10月、2020年東京オリンピック・パラリンピックの機運を醸成し、ダンスフォーラム2020が全国的な取り組みになるよう、「ダンスチャレンジ2020!」というプロジェクトを立ち上げた。オリジナル曲「Welcome to TOKYO」を使って自由に踊り、参加者数とその様子を動画や写真投稿、文書で報告いただき、2020年9月30

日までに参加者数20200人を達成することを目標とした。その結果、北海道から沖縄まで様々な振付の「Welcome to TOKYO」が展開され、2020年6月には20,200人を達成することができた。2020年2月現在33,500人を超し、大きな成果を得ており、9月まで継続する。

本大会でも多様な振付の「Welcome to TOKYO」が披露され、最後は来場者全員で踊り、大会を締めくくった。

## 2. 女子体育に関する講習会及び育成事業

### 1) サマーセミナー

#### JAPEW SUMMER SEMINAR 2019-令和元年度夏期講座-

□生涯スポーツ／授業・保育専門委員会(佐藤常務理事、細川常務理事、古関理事、國川理事、田中安理理事)

【公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業】

期 日 2019年8月17日(土)・18日(日)

※19日(月)ー学校体育コース、教員免許状更新講習、JAPEW-DMIL(クリニック、養成)のみ

後 援 スポーツ庁 東京都 (公財)日本スポーツ協会 (公財)スポーツ安全協会  
(公財)ミズノスポーツ振興財団 (公財)日本学校体育研究連合会

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)

内 容 講演、講義、実技、実習等

参加者 全国の幼保・小・中・高校・特支および大学、生涯スポーツなどの指導関係者、大学生等

参加費 生涯スポーツ・学校体育コース(2日): 会員 12,960円、一般 15,120円、学生 7,560円

※会員=正会員・特別会員および『女子体育』定期購読者

学校体育コース:(19日料金): 会員 6,480円、一般 7,560円、学生 3,780円

教員免許状更新講習(1日間) 会員・一般 6,480円

JAPEW-DMILクリニック(1日間) 有資格者 5,400円

JAPEW-DMIL養成講習会(3日間) 会員・一般・学生 16,200円

#### <概要>

本年度のメインテーマは「ダイバーシティ(多様性)とダンス」とし、学校体育コースは「新学習指導要領におけるダンス指導のポイント」、生涯スポーツコースは、「わたし」をキーワードに、それぞれのテーマを掲げ、8月17日から19日までの3日間開催された。今年度は両コースとも2日間受講を原則とし、学校体育コースは3日目の追加受講を可能とし、教員免許状更新講習も同時に開講された。また、今年度は新たな試みとして「親子プログラム」が開催され、国際交流委員会主催のワークショップも同時に開催された。生涯スポーツコースでは、2017年度より(公財)健康・体力づくり事業財団の「健康運動指導士・健康運動実践指導者」資格ならびに(公社)日本フィットネス協会の「GFI」資格を更新するための認定講習会を兼ねており、17名の資格更新が認められた。昨年度よりホームページへの要項掲載、及びホームページからの申込受付を開始しており、両コースとも多くの受講者が活用している。参加者の内訳は、生涯スポーツコース178名(会員113名、一般49名、学生5名、特別無料枠4名、養成講習7名)、学校体育コース58名(会員21名、一般16名、学生15名、特別無料枠3名、本部役員特別無料枠3名)、学校体育コース+国際交流WS11名、免許更新17名、親子10家族、合計264名+10家族となった。

学校体育コース(教員免許状更新講習を含む)1日目は、「新学習指導要領におけるダンス指導のポイント」をテーマとし、小～中学校:高橋和子氏、中～高等学校:細川江利子氏による講演と、小学校(中村直樹氏)、中学校(國川聖子氏)、高等学校(安井登茂子氏)それぞれの実践報告が行われた。実技では、高橋和子氏による「表現系ダンスの指導法」で遊びの感覚を通して踊り手から動きを引き出し、多様な動きを経験させていくことを学んだ。2日目は、「現代的なリズムのダンスの指導法」について、赤堀文也氏、立木愛氏から模範のポイントやリズム系ダンスの発祥などの講話を交え、知と技両面から深い学びを得た。また、指導案作成と模擬指導では「明日に活かせる実践法」と題し、村田芳子氏、細川江利子氏、両講師による実技指導の後、4班によるグ

ループワークが行われミニ授業が展開された。3日目は、松原豊氏による「特別支援教育におけるアダプテッド・ダンスの指導」ではインクルーシブな視点から多彩かつ具体的な指導法を実践的に学び、香取直登氏、入手杏奈氏による「明日に活かせる表現力」では身体を通したコミュニケーションを楽しみながら知識を深めた。

生涯スポーツコースの1日目は、大学教授であり元アナウンサーの好本恵氏による講演「言葉の花束～心に響く言葉」で、言葉そのものが持つ力、人との関わり大切さを盛り込み、聞きやすく分かりやすく、かつ受講者の心に響く内容であった。2日目の片山千恵氏による講義「スポーツにおけるメディアトレーニング」では、新しい知識と重要性、その影響力について学んだ。外部講師による実習講座では、福田好氏による「バーアスティエ」でクラシックバレエの動きを床に寝て動くエクササイズを体験し、元劇団四季所属の大滝真由美氏による実技では、美女と野獣の作品に触れながら、ミュージカル舞台に立ったような身体の使い方を「体験！ミュージカル気分」で学んだ。内部講師による4つの実技講習は、メインテーマ「ダイバーシティ（多様性）」という言葉から、個性を大切に、人と違って、みんなそれぞれで良い、などをコンセプトに、「わたし」「私」「ワタシ」「WATASHI」という共通テーマを持ち、様々なジャンルの音楽に合わせて、地方から参加される大勢の指導者達に新しい挑戦の場を提供した。

■ 8/17・18 プログラム

8月17日(土)	8:30~10:00	生涯スポーツコース	受付	10:00~11:50	開講式/講演(70) 【セ417】 言葉の花束～心に響く言葉～ 好本 恵	13:00~14:20	実技①(80) 【ス1・2体】 わたしの想い 佐藤 庚子	14:35~15:55	実技②(80) 【ス1・2体】 体験ミュージカル気分 大滝真由美	16:10~17:30	実技③(80) 【ス1・2体】 私はWATASHI 藤史美・田中安理	18:00~	(60) 復習 コーナー		
	9:20~10:00	学校体育コース	受付	10:00~11:50	開講式/講演・実践報告 【セ101】(110) 新学習指導要領におけるダンス指導のポイント 高橋和子・細川江利子・中村・國川・安井	13:00~15:45	実技① 【ス3体】(165) 表現系ダンスの指導法 高橋和子	16:00~17:00	教員免許状更新講習 試験 【セ103】						
8月18日(日)	8:40~9:00	生涯スポーツコース	受付	9:00~10:20	講義(80) 【セ102】 メディアトレーニング 片上 千恵	10:40~12:00	実技④(80) 【ス1・2体】 WATASHI NO RHYTHM 飯田 路佳	12:50~14:10	実技⑤(80) 【ス1・2体】 ワタシノキョウ 多田 五月	14:25~15:45	実習(80) 【ス1・2体】 バー・アスティエ 福田 好	16:20~16:50	まとめ 【ス1・2体】	18:30~	閉講式 DML発表 (70) 【セ108】
	9:40~9:00	学校体育コース	受付	9:00~11:50	実技② 【ス3体】(170) 現代的なリズムのダンスの指導法 赤堀文也・立木 愛	13:00~15:15	指導案作成と模擬指導 【ス3体】(135) 明日に活かせる実践法 村田芳子・細川江利子	15:40~16:40	教員免許状更新講習 試験 【セ106】						

■ 8/19プログラム 学校体育コース・教員免許状更新講習・JAPW-DML(クリニック・養成講習会)

8月19日(月)	8:40~	学校体育コース	受付	9:00~11:50	実技③ 【ス4体】(170) 特別支援教育におけるアダプテッド・ダンスの指導 松原 豊	13:00~15:15	実技④ 【ス4体】(135) 明日に活かせる表現力 香取直登・入手杏奈	15:25	閉講式	15:40~16:40	教員免許状更新講習 試験 【セ106】	
	9:30~	DML 養成講習会	受付	10:30~12:00	実技 (A・B・C級)	13:00~14:20	関連理論(合同)	14:40~15:40	実技(A・B・C級)		閉講式	
		DML クリニック	受付	※内容は有資格者に別途ご案内します。別紙参照								

## 2) 未来世代の研究発表会

### 第63回未来世代の研究発表部門&卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会（細川常務理事）

期 日 2020年2月15日（土）

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター（カルチャー棟 小ホール）

内 容 ①研究発表部門 <第63回未来世代の研究発表会（卒論・修論・博論）>  
②卒業ダンス作品発表部門

参加者 高校生、大学生、高校・大学の指導関係者、会員、一般。合計145名（招待校を除く）

参加費 発表者：1人1,000円、参観者：研究抄録プログラム代500円（ダンス鑑賞者は必需）

<概 要>

この研究発表会は、3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による研究（口頭発表・ポスター発表）とダンスの発表会である。今年度は口頭発表3題（博論2題、修論1題）、ポスター発表34題、ダンス発表8作品、ダンス招待校2校の発表があり、発表者（論文・ダンス合計74名）・一般57名（うち論文から参加が25名）・指導教員・招待校41名を含め、約190名の参加人数であった。

昨年度および一昨年度は小ホール改装工事等により口頭発表をセンター棟160人室、ポスター発表を第1体育室、ダンス発表を第2体育室で行ったが、今年度は3年ぶりに小ホールで行うことができた。全ての部門が小ホール内で行われたため、移動も少なく発表者・参観者ともに移動を含めた負担が少なかった。口頭発表は広い会場でスライドも見やすく、音響も聴きやすいため、発表者・参観者にとって良い環境であった。ポスター発表は小ホールホワイエで行ったが、発表者が例年と比較して少なかったため、スペースも広く使えた。しかし、ポスター配置案に不備があり、後半スタート時に混雑し、また近くのグループの声が邪魔になってしまったシーンが見られたため、来年度は注意を要する。ダンス発表はAJDF委員の先生方の強力なサポートに助けられ、大きなトラブルもなく無事終了した。ただ、招待校用の部屋が足りずに（夜間の時間帯が借りられなかったため）、事務室を楽屋として代用し、時間帯内で楽屋移動を招待校にさせていただくことになってしまい、申し訳なかった。来年度は夜間の時間帯まで予約したので、この問題は解消される。また当日ではないが、舞台図面（HP上）と実際のアクティグエリアの広さが異なる（実際より狭い）ことが、会場打ち合わせにて判明した。特に招待校は2校とも人数が多かったため、早めに連絡することができて良かったが、これも来年度は要注意である。フィナーレでは招待校の大学生や高校生も参加して、ダンサーも観客も楽しめるひとときとなった。

全国大会として東京都女子体育連盟と合同開催ということもあり、そちらの参加者の方々もダンス発表のみならず午前中の口頭発表にも駆けつけてくださった。お忙しい中、理事の先生方が気にかけて顔を出してくださり、また他の委員の先生方の細やかなサポートにより、スムーズに遂行することができた。心より感謝申し上げたい。

## 3) JAPEW-ダンスムーブメントセミナー

### ダンスフォーラム2020（第14回JAPEWダンスムーブメントセミナー2019）

□指導員制度専門委員会（佐藤常務理事、古関理事、本田理事）

【公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業】

主 催 （公社）日本女子体育連盟 東京都女子体育連盟

期 日 2020年2月15日（土）・16日（日）

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

後 援 スポーツ庁 （公財）日本学校体育研究連合会 （公財）スポーツ安全協会

東京都教育委員会 （公財）日本教育公務員弘済会東京支部 東京都小学校体育研究会

東京都中学校体育連盟 東京都公立中学校保健体育科研究会 東京都特別支援学校長会

東京都高等学校保健体育研究会 東京都国公立幼稚園・こども園長会

（一財）東京都私立中学高等学校協会

講 師 八木ありさ、笠井里津子、佐藤廣子、三代川葉子（JAPEW-DMIL A級指導員）

飯田路佳、名波陽子（JAPEW-DMIL A級指導員）ヨーコ・ゼッターランド（再掲）

参加者 255名 講師等6名 計261名  
参加費 一般6,000円 大学生・大学院生4,000円

#### <概要>

今回14回目を迎えた本セミナーは、(公社)日本女子体育連盟(以下JAPEW)と東京都女子体育連盟の共催により、ダンスムーブメントの普及を図ると共に、生涯スポーツ、学校体育の振興に寄与する人材育成を目指して行い、全国からの会員や参加者、総勢261名が受講した。(公社)日本女子体育連盟からは顧問、参与をはじめ常務理事や理事等10名が参加した。講師陣は、実技については東京都から講師を迎え、指導員制度専門委員でもある会長以下3名および東京都のJAPEW-DMILA級指導員2名が講習にあたった。また講義についてはヨーコ・ゼッターランド氏を迎えて行った(1.3参照)。

セミナーは、個性豊かな講師陣による講習が続き、会場は参加者の熱気であふれた。参加者からは、「新たな空気を感じることができた」「これからもイベントに参加したい」「バラエティに富み、楽しく動けてよかった」など、多くの満足の声があがった。

今回のセミナーは、第53回全国女子体育研究大会(東京)も兼ねて「ダンスフォーラム2020」と称して展開した。そのため日頃の活動領域や関心を超え、北海道から沖縄まで多くの方が集い、踊り、交流する充実の2日間となった。

## 4)「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」養成事業(略称JAPEW-DMIL)

□指導員制度専門委員会(佐藤常務理事、古関理事、田中安理理事)

### ①「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」養成講習会

<A級-第15回、B級-第20回、C級-第23回>

期日 2019年8月17日(土)・18日(日)・19日(月)  
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会  
内容 理論、実技 計21時間 (※17日・18日はサマーセミナーAコース受講に代える)  
講師 飯田路佳、佐藤廣子、徳野裕子(十文字学園女子大学)  
受講者 今年度資格取得希望者 A級0名、B級5名、C級2名 計7名  
受講料 会員・一般・学生 16,200円

### ②「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期日 2019年9月14日(土)・15日(日)・16日(月)  
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会  
内容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験  
講師 片岡康子、高橋和子、高橋真琴、林真幾子、飯田路佳、佐藤廣子、寺山由美  
受講者 A級0名、B級3名、C級2名  
合格者 A級0名、B級3名、C級2名  
検定委員 片岡康子、高橋真琴、林真幾子、飯田路佳、佐藤廣子、寺山由美  
概要 本年も、優れた資質の指導員を輩出することができた。詳細は『女子体育』10・11月号で報告した。  
公認指導員現数は147名(2020.01.08現在)

### ③「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」クリニック

期日 2019年8月19日(月)  
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会  
内容 実技研修  
講師 片岡康子、高橋真琴、林真幾子、寺山由美

受講者 A・B・C級 有資格者 61名  
受講料 会員 5,400円

概要 本年も多くの公認指導員の参加があった。クリニックおよび養成講習会に関する詳細は『女子体育』12・1月号で報告した。

### 3. 機関誌その他の学術刊行物の発行

#### 1) 『女子体育』編集発行

□『女子体育』編集専門委員会（宮本常務理事、高橋うらら理事）

①刊行 隔月刊・年間6回とし、発刊は発刊月前月の25日発刊とした。

構成：通常号4本、特集号2本（ダンス指導解説特集号、AJDF-KOBE報告特集号）

②方針 2019年度も引き続き、通常号80頁、増刊号120頁、横書き、写真の掲載等、同様の方針で取り組んだ。

③購読料 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円

ゆうちょ銀行利用手数料の値上げ及び、消費税値上げに伴い、2019年度よりばら売りの場合の本体価格を値上げした。通常号 909円（旧価格 907円） 特集号 1,182円（旧価格 1,157円）

④年間テーマ 「ダイバーシティ（多様性）とダンス」

現代社会の課題としてあげられる「ダイバーシティ」。年齢や性別はもちろん学歴・職歴、国籍・人種・民族、性的指向・性自認、ライフスタイル、価値観の違いなどから人を制限せず、それぞれの個性を生かし最大限の能力を発揮させようという取り組みが求められている。JAPEWでは、これまでも幼児期から生涯にわたる幅広い世代に対応するダンスや障がいを持った方のダンスやジェンダーとダンスなどについて提案を重ねており、また、海外アーティストによるダンスのワークショップなどの交流も継続している。このような実践に基づき、2019年度からは、「ダイバーシティ（多様性）」というキーワードで、さらに内容を深め、視野を広げていきたいと考えて、このテーマを設定した。

新連載として、オリンピック・パラリンピックの歴史や理念をひもとく「Welcome to TOKYO オリパラに向けて」を開始して、毎回、様々な視点から有識者に論じていただき、興味深いコーナーとなった。

⑤月テーマ

○4・5月号 「世界と向き合う」

ダンスが新たな世界を見つけるきっかけとなったり、ダンスを通して、世界に視野を広げて多様な人・物・ことと触れたりできる、そんな活動等について、実践的に論じた。

○6・7月号 「ダンスから発信する多様性」

自他の違いを良さとして認め、互いに触発し合い、学び合うことの出来る表現・ダンスは、どんな資質・能力を育むのか、また、実際に多様なメンバーで取り組むダンスの舞台等、実践的に論じた。

○8・9月号 特集「ダンス指導のQ&A ダンス指導実践集」X

現場の先生方からたくさんのダンス指導に関するクエスチョンを集め、また、現場の先生たちにもさまざまな視点からアンサーを寄せていただく企画を第一部に、JAPEW SUMMER SEMINAR 2019のテキストにもなる実践的資料を第二部に設定して特集号とした。

○10・11月号 AJDF-KOBE 特集号

第32回大会の様子を紹介し、これまで通り全作品に対する講評と写真を掲載した。

○12・1月号 「境界を越えるための合理的配慮」

スポーツ弱者を世界からなくす試み、コミュニケーションのジェンダー問題など、真の多様性を支える、試みや環境についての理論や、教育現場での合理的配慮などについて検討することが出来た。

○2・3月号 「インクルージョンの先にあるもの」

インクルージョンを実現していく先に、どのような世界が広がるのか。インクルージョンを視点とした、理論や実践を掲載し、未来を描く号となった。

## 2) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』発行

□『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』編集委員会(高野美和子常務理事、中村理事)  
『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第36巻を刊行した。

## 4. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

### 1) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

#### 第32回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸):32nd All Japan Dance Festival-Kobe

□AJDF-KOBE専門委員会(寺山常務理事、羽岡理事、熊谷理事)

期 日	2019年8月6日(火)・7日(水)・8日(木)・9日(金)		
会 場	神戸市/神戸文化ホール・神戸市立中央体育館		
主 催	(公社)日本女子体育連盟 神戸市 神戸市教育委員会		
主 管	第32回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 実行委員会		
後 援	スポーツ庁 NHK(日本放送協会) (公財)日本スポーツ協会 (公財)全国高等学校体育連盟 全国高等学校長協会 兵庫県 兵庫県教育委員会 (公財)神戸市スポーツ教育協会 (公財)ミズノスポーツ振興財団		
協 賛	(株)日本旅行神戸支店 ミズノ株式会社		
協 力	(公財)ユーハイム体育・スポーツ振興会		
内 容	①開会式 ②創作コンクール部門(高校/予選・決選、大学/予選・決選) *決選:有料化(入場料¥1,000) ③参加発表部門 ④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品、ゲスト作品) *特別プログラムは大ホールにて2回公演(入場料¥4,000)		
表 彰	文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1) 特別賞(高大各4)、 奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)		
参加校数	①創作コンクール部門	高校/90 ・ 大学/30	計 120校
	②参加発表部門	高校/32 ・ 大学/15	計 47校
参加人数	①創作コンクール部門	高校/1,837 ・ 大学/552	計2,389名
	②参加発表部門	高校/592 ・ 大学/235	計 827名
参加都道府県数	27		
TV放映	NHK Eテレ 8月31日(土) 15:00~16:00		
その他	・第20回大会記念DVD(20年間のテレビ放映映像を含む総集編)や過去大会のDVD販売 ・第32回大会のDVD(Blu-ray)販売と『女子体育』10・11月号報告特集号の申し込み ・大会の詳細を『女子体育』10・11月号報告特集号に報告		

#### <概 要>

大会第1日目は、「上演打合せ」「顧問会議」「場当たり」を予定通りに実施した。第2日目「創作コンクール部門予選」「開会式」、第3日目「創作コンクール部門決選(有料化)」、第4日目「参加発表部門上演」「特別プログラム 受賞作品上演」も、ほぼ予定通りに実施された。参加者数は延べ3,216人、参加校数は167校で年々減少傾向にある。大会役員・委員(総務・上演・アナウンス・審査・式典・受付・記録・DVD等販売・接待・会場・救護・警備)95名の他、サポちゃんズ、舞台スタッフ(舞台監督・照明・音響・アナウンス)、各業者(JTB・写真・印刷・HP)等、多くの人々の力が結集し、本大会も無事に終えることができた。

第32回大会の大きな変更点として、組織改正で本事業が神戸市教育委員会の手を離れるため、神戸市職員の代替要員として人材派遣会社に委託し、人材を派遣した点が挙げられる。当初の不安をよそに、イベント等の経験豊富なスタッフが揃い、各部署で混乱なく業務を遂行できた。また、決選チケット販売を日本旅行に委託することで、申込受付が



ら効率的な業務を行うことができた。さらに、予選結果発表について、昨年度は開会式後にその場では発表しなかったが、今年度は一昨年までの方法を踏襲して開会式後に結果を読み上げ、HP 上でも当日中に公表した。

課題としては、音楽著作権の取り扱いと申請方法が挙げられる。次年度の大会要項に反映させるべく、審議を進めている。

## 2) 国際的な研究交流事業

□国際交流専門委員会（田中葵理事、原田理事）

### ① 国外の体育・スポーツ・ダンス推進団体との連携、情報交流

#### ○国際女子体育連盟（IAPESGW）との連携

2019年7月10日-13日に開催された国際会議マドリッドリージョナル大会には、JAPEWから7名およびJAPEW-DMIL保持者の8名が参加した。IAPESGWからの依頼でワークショップを担当した他、口頭発表、ポスター発表、デモンストレーションを行った。

#### ○JAPEWHP「国際情報」ページに、IAPESGW ニュースレターを毎月配信している。またCID（International Dance Council 国際ダンス協議会）、IWG（International Working Group on Women and Sports 女性とスポーツの国際ワーキンググループ）を中心とした、海外における国際的な女性と体育・スポーツ・ダンス関連の情報を配信した。

### ② インターナショナル・ダンス・ワークショップの開催

期 日 2019年8月19日（月）10:00~12:00

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター スポーツ棟第5体育室

主 催 （公社）日本女子体育連盟

講 師 湯浅永麻（現・フリーダンサー、元・ネザーランド・ダンス・シアター）

内 容 コンテンポラリーダンスのワークショップ及びトーク

概 要 今年度は、ダンスに対する国際的な視野を学ぶ機会とすると同時に、ワークショップを通して受講生間の交流を深める場を提供することを目的とし、国際的な活動経験のあるダンサーとして、ネザーランド・ダンス・シアター（NDT）の元ダンサーであり、近年はフリーダンサーとして国際的に活動をしている湯浅永麻氏を招聘した。そのため内容としては、ダンスの技法についてのワークショップに加え、日本人として海外でダンサーとして就労した経験等のトーク時間も設けた。

また、全国大会・SS との同時開催させていただいたことで、国際交流委員企画のワークショップを周知する機会ともなった。参加者は23名（内訳：会員1名、一般2名、学生20名）であった。今後のワークショップの方向性としては、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のIAPESGW国際会議東京大会開催に向け、ダンスを通じた国際理解と交流につながるワークショップや、シンポジウムとする予定である。

### ③ （公社）日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

○ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。

○会長挨拶を含めた連盟の活動をIAPESGW News Letterへ投稿した。

### ④ 日本国内にある異文化グループや国際交流グループとの連携事業についての検討

○学校や地域において、体育・スポーツ・ダンスを通じた異文化交流が推進できる方法を提案できるよう、情報収集を行った。

## 5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

### 1) JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会（高野美和子常務理事、長津理事、高良理事）

JAPEW 賞は社団法人（当時）日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、平成 16 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、24 年度に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに平成 26 年度に「松本千代栄賞」が制定された。本年度は功労賞および指導者賞について候補者の推薦があり、

2019（令和元）年10月25日に各賞の選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。受賞者には、ダンスフォーラム 2020<第53回全国女子体育研究大会（東京）/第14回JAPEW ダンスムーブメントセミナー>開会式（2020年2月16日）において表彰状と副賞を授与し、顕彰した。なお、受賞者氏名は機関誌『女子体育』誌上およびHP上で公表した。

- ① 第6回松本千代栄賞 該当者なし  
選考委員会（委員長）八木ありさ  
（委員）川口千代、片岡康子、村田芳子、高橋和子、高野牧子、飯田路佳
- ② 第8回 JAPEW功労賞  
受賞者 石澤宣子氏（富山県）、加藤房枝氏（愛知県）、佐分利育代氏（鳥取県）、知花英子氏（沖縄県）、中村久子氏（徳島県）、松尾共子氏（兵庫県）  
選考委員会（委員長）八木ありさ  
（委員）片岡康子、高橋眞琴、村田芳子、高橋和子、高野牧子、長津芳
- ③ 第16回 JAPEW指導者賞  
受賞者 井本節子氏（千葉県）、齋藤郁代氏（千葉県）、田中安理氏（東京都）、田中富美子氏（山口県）、原田純子氏（大阪府）、安井登茂子氏（愛知県）、若松美恵子氏（東京都）  
選考委員会（委員長）八木ありさ  
（委員）山西哲郎、林眞幾子、笹本重子、飯田路佳、高野美和子、高良郁子
- ④ 第16回 JAPEW研究奨励賞 該当者なし  
選考委員会（委員長）八木ありさ  
（委員）阿江通良、川口千代、細川江利子、高野牧子、宮本乙女、高野美和子

## 6. 広報・普及活動

□広報・普及委員会（高野美和子常務理事）

### 1) 各加盟団体とのIT化の推進

事務手続き効率化のため、各加盟団体間でIT化を一層推進した。

### 2) 『女子体育』購読促進活動・会員増員のための活動

研修事業での新規（新卒学生含む）及び継続会員獲得、並びに購読期限切れ会員への対応を行った。  
（事務局・総務・編集委員会との連携）

### 3) 新ホームページの開設と内容充実及び開示情報の更新

- ・国際大会を視野に入れた新ホームページを開設し、レイアウト、デザインを新しい形に変更した。
- ・各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
- ・サマーセミナーおよび全国大会、未来世代の研究発表会のエントリーをHP上で行った。
- ・事業報告、事業計画、財務諸表（決算書・予算書等）の情報を公開した。
- ・各県情報のHP化／各県教委等、他団体との相互リンクを充実させた。

### 4) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第36巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開した。